

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会 キッズプロジェクト「こども記者」 8人のこども記者が一日密着取材!

世界トライアスロンシリーズ横浜大会で昨年大会から実施しているキッズプロジェクト。その中で今大会より新設されたプログラムが「こども記者」です。世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコイメディア・ジンギパン様のご協賛により実現した、世界大会の取材をメインに新聞づくりまで行う3日間のプログラム。

ゴールデンウィーク最終日の5月6日、横浜市三ツ沢公園青少年野外活動センターおよび陸上競技場で実施した大会取材前の事前ワークショップでは、カメラの使い方、新聞づくりについての説明をした後、障害者スポーツ文化センター 横浜ラポールにご協力をいただき、障害者の陸上競技大会「第20回ハマピック陸上競技大会」

平成27年5月16日
大会当日・選手インタビュー



平成27年5月16日
大会当日・レース取材



平成27年5月6日
事前ワークショップ・模擬取材体験




平成27年5月24日
事後ワークショップ・新聞づくり



で写真撮影、インタビューといった模擬取材を体験。5月16日の大会当日は、朝6時55分スタートのエアリートパラトライアスロンの部から最終のメダルセレモニーまで9時間にわたる取材活動を行いました。雨にも負けず、カメラのシャッターを切り続けるこども記者の8人。レース終了直後の山田敦子選手、佐藤圭一選手、中山賢史朗選手へのインタビューでは、それぞれがレース中に感じたことを質問しました。そして5月24日の事後ワークショップでは、16日の取材を経てそれぞれが記事を作り上げ、新聞を作り上げました。ぜひご覧ください。


記者紹介

市川 暖乃香 (ののか) さん
西東京市立けやき小学校・6年



選手インタビューの中からたくさんのアドバイスを頂きました。今回もらったアドバイスをヒントに頑張っていきます。

櫛本 (いちもと) 夕奈さん
横浜市立本牧小学校・6年




特別な場所で写真を撮らせてもらって幸せでした。障害のある選手達への取材の中からたくさんの勇気もらいました。

田中 昌樹さん
横浜市立黒須田小学校・6年




今回は、貴重な体験を沢山させてもらいました。人と交わり、考えることを学ぶことができたのが何よりよかったです。

丸山 ちなさん
横浜市立山下小学校・6年



シャンパンがかかるくらいの距離で、プロカメラマンに混ざって表彰式の写真を撮れたのが、一番記憶に残りました。

諸星 楓さん
藤沢市立明治小学校・6年




一眼レフカメラを使ってレース風景を撮影しました。うまくとれるようになった時の達成感がうれしかったです。

岩田 彩花さん
つくば国際大学 東風小学校・5年




取材したパラトライアスロン選手の方々は、皆明るく優しく、前向きなところがすてきでした。私も負けずに頑張ります。

菊地 直人さん
横浜市立本牧小学校・5年



ボランティアさんの細かい気配りで、安心して選手たちが全力を出せる、ということ取材の中から感じました。

佐藤 りなさん
横浜市立永田小学校・5年



スポーツ選手のあきらめない強い心にふれることができました。このことは、自分の成長につながります。

横浜こどもスポーツ基金とは?
「横浜こどもスポーツ基金」は、障害のあるこども達へ「スポーツ」を通じて、夢と希望を持って育ち、身近な地域でスポーツ活動に参加できる環境作りを行うことを目的に創設されました。詳しくはHPをご覧ください。

詳細は [横浜こどもスポーツ基金](http://yokohama-csf.jp/) 検索

URL <http://yokohama-csf.jp/>

スポーツ施設を探したい！
スポーツの仲間を増やしたい！
そんな時は
横浜スポーツ情報サイト三
ハマスポ

2016 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
5月14日(土)・15日(日)
開催決定!!

**ITU
WORLD TRIATHLON
YOKOHAMA**

「横浜こどもスポーツ基金」は、「横浜トライアスロン」をきっかけに、ジョンソン株式会社からの寄付により誕生しました。

パラトライアスロン密着取材

2015年5月16日(土)パラトライアスロンの大会が横浜で開催されました。気候は雨で、海は荒れていました。皆さんはパラトライアスロンって何だろう?と思う方が多いと思います。

トライアスロンの「トライ」はラテン語で「3」を意味し、「アスロン」は「競技」を意味します。

パラトライアスロンとは、体に障害を持つ人たちが競い合う競技で、泳いで(スイム)、自転車(バイク)をこいで、最後は走って(ラン)ゴールする、非常に大変な競技です。

トライアスロンも同じ種目を行います。違いは、パラトライアスロンは障害を持つ人たちが競い合います。パラトライアスロンは選手の障害の程度によって競技結果に及ぼす影響を最小化するために、障害の度合いに応じて類型(カテゴリー)があります。カテゴリーはPT1~PT5まであります。横浜大会のパラトライアスロンは0.75km泳いで、20km自転車をこぎ、5km走ります。

今回はある1人の女性選手取材することになりました。



PT5の部・2位の山田敦子選手(写真右) 【撮影・市川暖乃香】

その方は山田敦子選手。PT5(視覚障害の部)に出られた選手です。視覚障害の人は、目が見えないので、ガイド1名がレース全体を通じて伴走しなければなりません。山田選手に今回のレースについて感想を聞いたところ、「今日は雨が降っていてとても怖かったです。なぜならバイクの時はスピードも速いのでとても滑りやすいからです。でもガイドさんがきちんと安全に頑張ってくれたおかげで、今日の大会は無事に終わりました」と笑顔で語ってくれました。

また、山田選手はランが苦手ですが、苦しく疲れてきたときに、ガイドさんや周りの皆さんの人からの暖かい声援のおかげで頑張ることができて、とてもうれしかったそうです。山田選手はPT5の部で2位になりました。今後も期待したいです。

【市川暖乃香】

私を感じたこと、印象的だったこと



私は今回の横浜大会を通して感じたことは、トライアスロンをやっている人やパラトライアスロンをやっている人はとても笑顔が素敵だと感じました。

また、佐藤選手というPT4(指がない)に出場したパラトライアスロンの選手取材した時のことが強く印象に残っています。

私は自分自身がトライアスロンをやっていて、最後のランの時ラストスパートが遅くなってしまうことを聞いたところ、すごいアドバイスを頂きました。

それは、「根性で頑張る。そして常に攻めないと勝てないと思う。なぜならつらい時に自分に自分を追い込んで、自分を厳しくできるかが勝負だから。自分がつらい時には、他の人も多分つらいと思う。その時に自分に負けたらだめ。」と熱く熱く語ってくれました。そして私は一番大切なことに気付きました。



こども記者紹介

市川 暖乃香 (ののか)
西東京市立けやき小学校
6年

今回は、レースが終わった直後、お疲れのところ選手の方に取材させて頂き、インタビューの中からたくさんの方のアドバイスを頂きました。今回もらったアドバイスをヒントに頑張りたいと思います。皆さんが私のこの記事を読んで、トライアスロンやパラトライアスロンのことに興味を持ってもらえたら嬉しいです。本当にありがとうございました。

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコイメーキングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコイメーキングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



横浜で世界トライアスロン大会が 開催されました

2015年5月16日土曜日の朝6時55分、雨が降っているなかで、世界トライアスロンシリーズ横浜大会のトライアスロン部が始まりました。パラトライアスロン部は、男女一緒に走っていました。トライアスロンは、1974年アメリカのカリフォルニア州サンディエゴで誕生しました。サンディエゴ・トラッククラブのメンバー達が、ラン（走る）4km、バイク（自転車こぎ）8km、スイム（泳ぐ）0.4km、ラン3.2km、スイム0.4kmで一番最初の「トライアスロン」大会を開きました。それがトライアスロンの始まりでした。

現在のトライアスロンの大会は、水泳（スイム）、自転車（バイク）、ランニング（ラン）の3種目を連続して行います。

パラトライアスロンでは障害の程度に区分けして、5つのカテゴリーに分かれています。



エリート男子スタートの飛び込んでいる様子 【撮影・樺本夕奈】

この日は、昼すぎから晴れてきて気温が高くなり、選手はもちろん観戦者も水分補給が必要となりました。選手達は走りながら、水を飲んだり体にかけていたりしていました。

最後のエリート男子では、スイムスタートの時に海のすぐそばまで入って取材ができたので、わたしには前日までの台風で汚れてしまった海面が見えていましたが、そのような中でも選手達は、勢いよく次々と飛び込んでいきました。

みんな電光石火のごとく速く泳いでいました。

海から出てバイクの時、選手達は猛スピードで自分の自転車の所へ走って行って、すばやく着替えて走りながら自転車に乗りました。ランの時、選手達は、真剣な顔でゴールを目指していました。この繰り返しで、みんな頑張っていました。



こども記者紹介

樺本（いちもと）夕奈
横浜市立本牧小学校・6年



今回、一般の人では入れない所に入れてもらって、写真を撮らせてもらって幸せでした。表彰式の時、表彰台の下で取材中、お祝いのシャンパンがかかって驚いたけど、そこで写真を撮らせてもらったことが、とてもうれしかったです。障害をもつ選手達を見ていたら勇気がわいてきました。例えば、佐藤選手は、生まれつき片方の手の指がないのに取材のとき明るく話してくれました。その時、「わたしは、これほど自由な体を持っているというのに、いろんなことにネガティブになってはダメなんだ」と思いました。これからは、心を入れかえて、いろいろなことがんばりたいです。



インタビューを受けた佐藤圭一選手 【撮影・樺本夕奈】

私は、選手にインタビューできて、嬉しかったです。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロのカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ（5月6日）、荒天の中、朝早くからの大会取材（5月16日）と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ（5月24日）。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

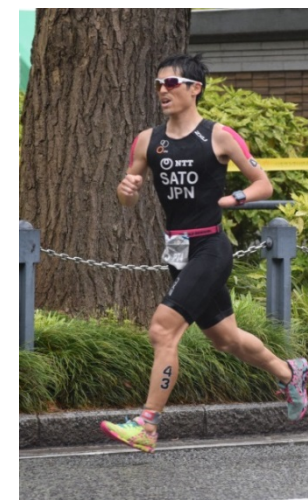
大会スタッフやプロのカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

当日は、朝から雨が降っていたので取材をするのが大変でした。私が選手達の様子を見てみると、みんな真剣な顔をしていました。海沿いからの取材のときには、あまりにも海が汚くみえていたので、自分ももし選手だったら、それに耐えられるだろうか...と思ってしまうました。

視力障害のある選手は、取材の時にこちらに目を向けて笑顔で話してくれて、競技中サポーターのガイドさんがいるから、一緒にがんばれと話していました。

足を失って義足で自転車こぎ選手、ふんばって歯を食いしばって走っていた選手。みんな、一生懸命でした。



印象的だった真剣な表情

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



雨も風も関係ない 2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会開催

5月16日、横浜の山下公園およびその周辺地区で、世界トライアスロンシリーズ横浜大会が開きいされた。当日は午前中が雨だったにもかかわらず、多くの人たちがつめかけ、選手達を応援した。

午前中は朝早くからエリートパラトライアスロンが行われた。様々な障害を持つ選手が雨の中、熱い戦いをくり広げ、会場は大いに盛りあがった。このパラトライアスロンでは、PT5（視覚障害者）で山田敦子選手が見事2位になり、表しよう台に上がって、大きなかんせいをあげた。

今回の大会について山田敦子選手は、「今年は雨でしたからね。自転車のスリップがこわかったです。でもガイドの人がずっと横で声をかけてくれて、となりにずっと応援団がいる感じなので、（大会では）目が見えないって少し得かもしれませんね」と前向きな発言をしていた。



力走する1位のハビエル・ゴメスノヤ選手（左）【撮影・田中昌樹】

この「世界トライアスロンシリーズ」は、横浜大会のほかにも9つの大会があり、横浜大会の次はイギリスのロンドンで行われる。最後の10戦目はアメリカのシカゴで行われ、どの大会も注目が集まる。そして、来年のリオデジャネイロオリンピックでも、この競技は正式種目であり、今後の選手達の走りにも期待が高まる。

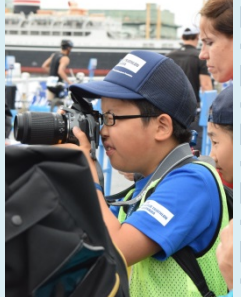
【田中昌樹】



PT5の部で2位に入った山田敦子選手（右）。左はガイドの武友麻衣さん【撮影・田中昌樹】

こども記者紹介

田中 昌樹
横浜市立
黒須田小学校・6年



今回こども記者を体験してみて、多くの選手の人達と話すことができたり、様々な写真をとったり、記事やコラムの内容を考えたりと、きょうな体験を沢山させていただきました。

例えば、一般の人が入れないような所で写真をとったり、表しよう台ののったり、給水場の様子を見たり…。今後絶対にできないような事もできました。

人と交わり、考えることを学ぶことができ、よかったです。

【横浜市体育協会・吉山博之】

今回の大会で、晴れの日と同じように走っていたのをまのあたりにして、ぼくはびっくりした。朝起きたとき、「チエツ。今日雨かよ。ついてないなあ」と思ったが、逆に雨が降ってくれたおかげで、晴れの日ではできないような質問をすることができた。みんな、雨の日でも変わらず練習を続けることを聞いた。その精神力にたくおどろいた。これはパラトライアスロンに関係なく、大切な事だと思う。少しの事でくじけない、そういうことを選手から教えてもらった。そして、選手達は自分の順位に関わらず、笑顔だった。選手達の笑いには、自分の中の達成感があると思った。ぼくも、目標をしっかりとって、それに向かってがんばる事を大切にしたい。

【田中昌樹】



今回、この世界的に有名な大会で印象的だったのは、「パラトライアスロン」だ。特に印象的だったのは、雨。ぼくは最初、「雨でパラトライアスロンってできるの？選手の体的にも無理でしょ。」と思っていた。しかしパラトライアスロンの選手達が、晴れの日と同じように走っていたのをまのあたりにして、ぼくはびっくりした。

雨の日のパラトライアスロン

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスを行った事前ワークショップ（5月6日）、荒天の中、朝早くからの大会取材（5月16日）と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ（5月24日）。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『見る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われますが、今回参加したこども記者のみならずは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



トライアスロン エリートパラの部
秦由加子選手 金メダル!



2015年5月16日・土曜日、「世界トライアスロンシリーズ第5戦」が、横浜市の山下公園で開催されました。

トライアスロンは、スイム・バイク・ランの3種目を続けて行う競技で、エリート競技は、パラの部・女子の部・男子の部にわかれています。パラの部は雨が降っている中、約60人の選手が朝早くからレースをしました。距離はスイム(750m)、バイク(20km)、ラン(5km)です。

パラの選手は、それぞれがもっている障がいの程度で5つのカテゴリ(PT1~PT5)にわけられ、そのカテゴリ(男女別)ごとに順位を決めます。レースの時、視覚に障がいのある人は、ガイドと一緒に出場して、ひもでつないで泳いだり、二人乗りの自転車に乗って、コースを教えてもらいます。足に障がいがある人は義足でレースをしたり、ハンドサイクルでバイクのペダルを走ります。このパラのレースでただ一人、日本人で金メダルをとったのがPT2の秦由加子選手(1時間28分57秒)です。他にも、PT5の山田敦子選手(1時間19分19秒)が銀メダル、PT4の佐藤圭一選手(1時間5分33秒)が4位と健闘しました。

エリート女子の部は、スイム(1.5km)、バイク(40km)、ラン(10km)で約60人のレースでした。路面がぬれていた為、転倒する選手もいました。そのような中、金メダルを獲得したのはアメリカのグウェン・ジョーゲンセン選手(1時間57分20秒)でした。日本人トップは上田藍選手で13位(1時間59分57秒)でした。

エリート男子の部は、女子と同じ距離を約65人でレースをしました。金メダルは、スペインのハビエル・ゴメス ノヤ選手(1時間47分)で、銀メダルを獲得したイギリスのブラウンリー選手とはわずか2秒の差でした。

日本人トップは、田山寛豪選手で20位(1時間48分53秒)でした。

【丸山ちな】



義足で走るPT2優勝の秦由加子選手

【撮影・丸山ちな】

トライアスロンの
違った楽しみ方



今回の取材では、レースが終わったばかりのPT5カテゴリ(視覚障がい)・山田敦子選手にインタビューする事が出来ました。「今日のレースは、地面が濡れていて滑って怖いと思ってた。でも、そういう時はガイドの武友麻衣さんがたくさん声をかけてくれたから助かった」と、レースの時の事や「目が見えなくなる前は、元々スポーツは嫌だったけど唯一好きだったバスケットボールをしていました。」などと、笑顔で色々な話をしてくれました。

他にも、レースを終えた選手達がリラックスした様子で会場を歩いていて、レースの時の真剣な表情とは違う顔を見る事が出来ました。

その両方の顔を見た事で、私は、トライアスロンが身近になった気がしました。それがとても良かったので、皆さんにもぜひ一度会場に足を運んで、観てみる事をおすすめします。会場では、出場選手がわかるパンフレットや資料を配っているため、お気に入りの選手を見つけ応援することも楽しいかもしれません。

【丸山ちな】

こども記者
事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『見る』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われますが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



「パラリンピック期待の星」登場! at yokohama

今回は、2015年5月16日(土)に開催された「ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会」取材しました。でもトライアスロンって何? という方もいると思うので少し説明します。

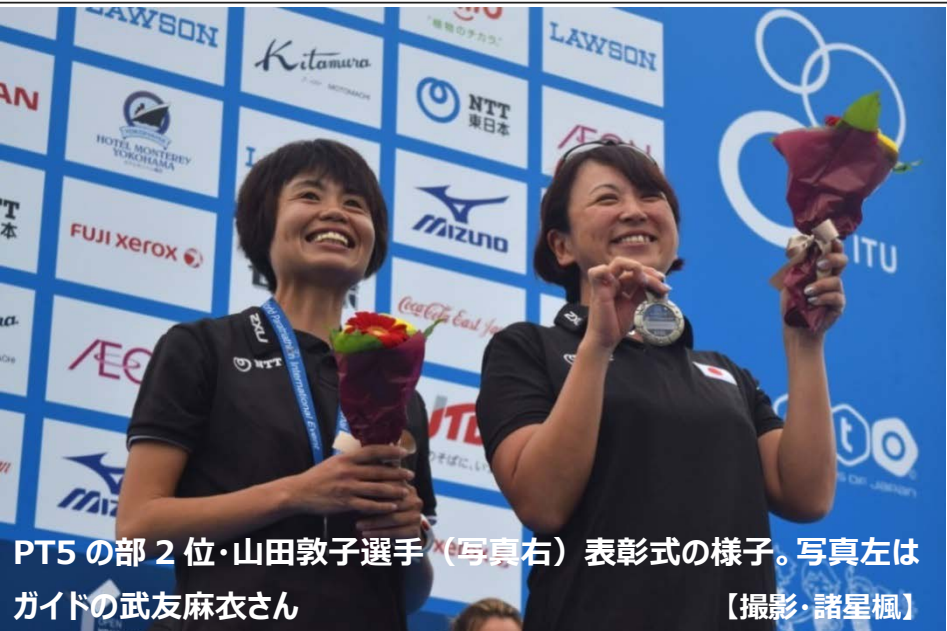
トライアスロンとは「泳ぐ」、「自転車をこぐ」、「走る」という3つの競技を続けて行います。すべてをやってゴールに着く速さで順位が決まります。

今回、6時55分スタートのパラトライアスロンから取材を開始しました。パラトライアスロンは体の不自由な方が競い合う競技です。症状の重さでグループ分けがされ、PT1からPT5まであります。PT1は両足に障害があり日常生活で車いすを利用している人たちのグループ、PT5は視覚障害のある人たちのグループです。

右下の写真は「タンデムバイク」と言い、視覚障害の人が乗ります。前に乗るのは目が見えるガイドで、後ろに乗るのが目の見えない選手です。二人で息をそろえないとうまくこげないです。今回視覚障害者の山田敦子選手にインタビューができました。「なぜパラトライアスロンを始めようと思ったのですか?」という質問に、「昔、バスケットボールをしていて、でも目が見えないとボールをゴールに入れることができないからパラトライアスロンを始めることにしました」と答えてくれました。



視覚障害の方が乗るタンデムバイク。雨で路面に水たまりができていた中のレースでした 【撮影・諸星楓】



PT5の部2位・山田敦子選手(写真右)表彰式の様子。写真左はガイドの武友麻衣さん 【撮影・諸星楓】

「走る」という3つの競技を続けて行います。すべてをやってゴールに着く速さで順位が決まります。今回、6時55分スタートのパラトライアスロンから取材を開始しました。パラトライアスロンは体の不自由な方が競い合う競技です。症状の重さでグループ分けがされ、PT1からPT5まであります。PT1は両足に障害があり日常生活で車いすを利用している人たちのグループ、PT5は視覚障害のある人たちのグループです。右下の写真は「タンデムバイク」と言い、視覚障害の人が乗ります。前に乗るのは目が見えるガイドで、後ろに乗るのが目の見えない選手です。二人で息をそろえないとうまくこげないです。今回視覚障害者の山田敦子選手にインタビューができました。「なぜパラトライアスロンを始めようと思ったのですか?」という質問に、「昔、バスケットボールをしていて、でも目が見えないとボールをゴールに入れることができないからパラトライアスロンを始めることにしました」と答えてくれました。また、「パラトライアスロンをしていて怖いと感じたことはありませんか?」という質問には、「雨の日の自転車のスリップが怖い」と話していました。実際に、取材の日は雨がたくさん降っていたのにもかかわらず、山田選手はガイドの武友麻衣さんとともに雨に負けず、PT5の部で二位に入賞することができました。

【諸星楓】

こども記者紹介

諸星 楓 藤沢市立
明治小学校・6年生



今回こども記者に参加して、とても楽しかったです。普通の人では入れない記者だけのブースに入ったり、試合を間近で見たりと貴重な体験をさせてもらいました。普段なかなか手にすることができない、一眼レフカメラを使ってたくさん撮影できました。パシャ、パシャとシャッターを切るとき感触が良く、だんだんうまくとれるようになった時の達成感がうれしかったです。また、取材をすることで、もっとみんなにパラトライアスロンなどの障害者スポーツを知ってもらいたいと思いました。貴重な体験をありがとうございました。

【諸星楓】



私が今回のパラトライアスロン取材して感じたことは、「障害者の方でもこんなに動けるんだ」ということです。そして、一番印象的だったことは、みんな笑顔だったことです。一度は障害のことで好きなスポーツができない、または、動かすことができない、と思っても、今はこんなに笑顔で楽しそうにしている姿を見て、私はとても勇気をもらいました。写真の佐藤圭一選手にインタビューすることができました。佐藤選手はPT4の部で左手が生まれつき不自由な障害です。レースをしていて大変なことは? という質問に、「泳ぐときに左手で水をかくことができないから大変です」と答えてくださいました。他にもバイクの時は腹筋で支えるなどと佐藤選手なりにたくさん工夫がされていました。そして佐藤選手のインタビューで心に残ったのは、「楽しめれば良い」、「辛くても他の選手も一緒だと思えば辛くないです」という言葉です。理由は、結果が悪くても楽しめれば悔いはない、ということに心をうたれたからです。そして、私もダンスをしていて最後の曲の方になってくると段々辛くなってしまふことがあるので、佐藤選手の言葉に勇気をもらいました。

楽しむのが一番!

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。
【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



横浜でビックイイベント開催 2015世界トライアスロンシリーズ横浜大会

5月16日(土)、横浜市の山下公園で「2015世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が開催され、激しい雨の中、熱い戦いが繰り広げられていました。

トライアスロンとは、ラテン語の3を意味する「トライ」と競技を表す「アスロン」を組み合わせた言葉で、スイム(水泳)・バイク(自転車)・ラン(ランニング)の3種目を連続して行う複合競技です。

横浜大会は、「パラトライアスロン」(障害者のトライアスロン)も行われる世界でも数少ない大会です。

パラトライアスロンの競技は、トライアスロンの競技種目と同じです。しかし、いくつか大きな違いがあります。まず、選手の持つ障害が競技結果に及ぼす影響を少なくするために、その類型と度合いに応じてカテゴリーが設けられていることです。横浜大会では5つのカテゴリーに分けられました。またランジション(スイムからバイク、バイクからランへと競技種目を転換すること)があり、この時にかかった時間も競技タイムに加算されることも特徴です。



ハンドサイクルでレース中の選手の様子【撮影・岩田彩花】

さらに上の写真のようなハンドサイクルや競技用車いすなど、特殊なものが使われたり、視覚障害者が対象となるPT5では、同性のガイドがレースの行われている間ずっと伴走することになっています。今回このカテゴリーで2位だった山田敦子選手は「トライアスロンを4回挑戦しているが、雨のレースは初めてだったので不安でした。でもガイドさんが協力してくれたので安心して走れました」と話してくれました。

「パラトライアスロン」は、2016年にリオデジャネイロで行われるパラリンピックで正式競技として採用されることになっています。

【岩田彩花】

印象に残ったインタビュー



世界トライアスロンシリーズ横浜大会のパラトライアスロンの取材を通じて、特に印象に残ったのは、PT4(うでの機能障害のカテゴリー)で4位になった佐藤圭一選手です。

佐藤選手は生まれつき左手の指先がなかったそうです。

そのため左手で物を持ってなくて不便な時もありますが、小学校の時もバスケットボールをふつうにしていたと聞いてびっくりしました。

また、「自転車に乗る時どこで支えているのですか?」というこども記者からの質問に対して、「腹筋で支えています」と答えていたので、佐藤選手の腹筋はとても強いだろうなと思いました。

最後に写真を撮らせてもらった時に、とても素敵な笑顔を見せてくれました。また、モデルのようにたくさんポーズをしてくれたので、うれしかったです。

インタビューさせてもらった選手たちが、2016年にリオデジャネイロで行われるパラリンピックにぜひ出場してほしいなと思います。【岩田彩花】



こども記者紹介

岩田 彩花 つくば国際大学
東風小学校・5年

一眼レフカメラは、今回のトライアスロン世界大会取材のワークショップで初めて使いました。最初は使いこなすのが大変でしたが、使い方がわかってきたら自分が納得できる写真がとれるようになってきてうれしかったです。

パラトライアスロンの選手の人たちに会うまでは、障害を持っている人たちは毎日悲しい顔をして生活していると思っていました。しかし、選手の人たちに実際に会ってお話を聞いたら、障害を持っていると感じさせないくらい皆明るくて優しく、前向きなところがすてきでした。私も負けずに頑張りたいと思います。

自分が取材したことを記事にまとめるのはすごく大変でしたが、仕上がった時はうれしかったです。色々な体験をさせてくださり、ありがとうございました。

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



山下公園でトライアスロン!

2015年5月16日、雨のなか、「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が開催されました。

1年間に世界10都市で開かれ、それぞれの大会でのポイント合計してチャンピオンを決めるというものです。スペイン、アメリカ、オーストラリア、ロシアなどから、世界で活躍する選手たちが山下公園に集まりました。

トライアスロンは、「スイム(泳ぐ) 1.5km」「バイク(自転車) 40km」「ラン(走る) 10km」の3つの種目を経て行います。ハッピーローソン付近から氷川丸までの山下公園前の海域を2周泳ぎ、自転車に乗ってコスモワールドまでの9周を走り、そのあとは自転車をおりて神奈川県庁までの4周を走ります。休み時間はありません。

取材をした日は「エリートパラトライアスロンの部」が行われました。「エリート」とは、トップ選手のことをいいます。「パラ」とは、手足や目や耳などが不自由な人たちのグループです。



エリート男子の表彰式(中央が1位のゴメス選手) 【撮影・菊地直人】



集団のまま車のようなスピードで走り抜ける自転車!

「パラトライアスロン」も、3つの種目を行います。手や足を切断した人、目が弱い人、耳が聞こえない人もエリートと同じコースを泳いだり走ったりします。目が弱い人には、動く方向などを伝えるために一緒に泳いだり走ったりする人が付いて、二人一組で競技をします。足の不自由な人は、バイクのときにレース用の車いすを使います。

また、「パラトライアスロン」は体の不自由さによって、さらに5段階に分かれています。なるべく同じくらいのグループに分けることで、公平な状態に近づけるためです。

エリート男子はスペインのゴメス選手(1時間47分00秒)が1位、エリート女子はアメリカのジョーゲンセン選手(1時間57分20秒)が1位になりました。

【菊地直人】

こども記者紹介

菊地 直人
横浜市立本牧小学校
5年



好きなスポーツは水泳とサッカー。
水泳歴は幼稚園の年少組の頃から始めて8年目で、得意な泳ぎ方はクロール。
サッカー歴は3年目で、得意なポジションはミッドフィールダー。
冬はスキーもやっています。パラレルターンがとくいで2年生からやっています。
小学校の休み時間は、いつも友だちとドッチボールをして遊んでいます。

【横浜市体育協会・吉山博之】

給水所の工夫



選手たちが走っている道路のわきにある給水所。テーパーの上には水が入った何本ものペットボトルが置かれている。そして、次々にやってくる選手たちが手を伸ばしてペットボトルを取る。水を飲む選手がいれば、頭から水をかける選手もいる。

選手たちは走っている道路に投げ捨てる。もしもキャップまで投げ捨てたら転んでケガをするかもしれません。そういったことが起こらないようにキャップを外していると思います。細かいところまで気配りしていることで、安心して選手たちが全力を出せる。頑張っているのは選手だけじゃないんだ、と思いました。【菊地直人】

こども記者事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力



トライアスロンって何だろう？

2015年5月16日(土)、神奈川県横浜市を舞台に、世界トライアスロンシリーズ横浜大会が開催されました。世界の一流選手が集まり、大さん橋ふ頭付近の横浜港をスイム、赤レンガ倉庫を通過して、みなとみらい方面までバイク、そして山下公園周辺を走りぬけるランコースが魅力的な大きな大会です。

トライアスロンとは、スイム(水泳)、バイク(自転車)、ラン(走る)の3つの種目を連続して行う競技のことを言います。トライアスロンの語源は、スイム、バイク、ランの3種目を一度に連続して行うことから、ラテン語の「3」を意味する「トライ」と、競技・運動を意味する「アスロン」という2つの言葉を組み合わせ「トライアスロン」と呼ばれるようになったと言われています。

また、競技は、スイム↓バイク↓ランの順番で行われるのが一般的です。長距離のレースは過酷であるため、選手の疲労による安全度合いを考えて、危険度の高い順番で行うようになったそうです。

トライアスロンは、「パラトライアスロン」として障害者の参加カテゴリーが確立しているスポーツとしても知られています。パラトライアスロンの中の注目ポイントに、スイム、バイク、ランそれぞれの種目の間にある「トランジション」があります。トランジションとは、スイムからバイク、バイクからランへと、競技種目を変えることを言います。ここでの速さもタイムに大きく影響するため、パラトライアスロンの第4の種目と言われることもあります。



ハンドラーの支えを受けるパラアスリート 【撮影・佐藤里奈】

スイムが終わった後、人によってはハンドラーと呼ばれるお手伝いをしてくれる人の支えを受け、自分のバイクエリアへ移動します。移動したら自分の力でウエットスーツを脱ぎ、バイクを乗車エリアまで押して移動し、バイクに乗りま

す。バイクの競技が終わったら、またトランジションエリアに戻り、最後のランに入ります。パラトライアスロンは、トライアスロンと違い、選手の持つ障害が結果に与える影響を少なくするため、PT1からPT5のカテゴリーを設けて、障害によって参加するカテゴリーを変更しているのも特徴です。

【佐藤里奈】

こども記者紹介

佐藤 里奈
横浜市立永田小学校
5年



今回のこども記者を体験して、私はスポーツ選手のあきらめないという強い心にふれることができました。このことが、自分の成長につながるなと思いました。

また、横浜に住んでいる私にとって身近な場所である山下公園や中華街に、外国人などの観光客がたくさん集まって楽しそうにしている様子を見て、私達が大人になったらこの場所を守っていかねばならないんだなと思いました。

これからは、横浜のいいところをたくさん探していきたいと思いました。

【横浜市体育協会・吉山博之】



強い心を持った選手たち

世界トライアスロンシリーズ横浜大会当日、6時55分にパラトライアスロンのスタートが切られた。私はトランジションエリアでスイムから帰ってくる選手達をドキドキしながらカメラをかまえて待っていた。

しばらくすると、次々とトランジションエリアにスイムを終えた選手達が来た。「パシャッパシャッ!!」私はカメラを選手たちに向け一生懸命にシャッターを切った。選手達に向かって「頑張れー! ファイトー!」と自然に応援の声がでていた。

選手達は、次々とバイクを乗車エリアまで押し、バイクを懸命にこぎはじめた。私はその姿を見て、心の中で「どんなに障害が大きくても、あきらめないと言おう心を持つてい

【佐藤里奈】

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われま

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

